

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196700124		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームわっかない絆 ユニット雅		
所在地	稚内市中央3丁目6番1号		
自己評価作成日	令和3年9月26日	評価結果市町村受理日	令和3年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0196700124-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点は、基礎介護を徹底して行うことで、廃用の進行を軽減し、入居者の要介護度状態の悪化を防止しております。特に、口腔ケアについては、力を入れており、誤嚥性肺炎の予防にも寄与しております。
そのため、ここ1年以上にわたり入院加療者を出していない、入居者の皆さんが穏やかに生活されている状況です。また、令和3年6月からは、地域の訪問看護事業所と医療連携体制も構築し、介護と看護のハイブリットケアを実施しており、独自の褥瘡予防評価シートも作成して、ケアの向上を行っております。

雅ユニットとして、特に力を入れている点・アピールしたい点としては、水分摂取状況と排せつ間隔を紐づけて管理し、便秘傾向の改善や十分な栄養補給量の確保を行っていることにあり、その成果として、ここ一年あまり、入院者を誰一人出すことなく、入居者の皆さんが、穏やかに生活できている状況にあることです。また、歌が好きな入居者が多く 普段から音楽が流れており それに合わせて歌ったり、リズムをとったりする姿がみられ入居者同士の会話も弾まれる場面も見受けられるなど、余暇や趣味活動の充実を図っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年10月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームわっかない絆」は稚内駅に直結した「キタカラ」交通・商業・観光・地域交流等の複合施設ビル3階にあり、4・5階には同法人経営のサービス付き高齢者住宅がある。認知症カフェの開催や駅前広場のイベント参加、買い物など、複合施設の利便性を活用した地域交流的多機能性豊かな支援が特色であるが、感染症の流行により様々な取り組みが自粛や中止となっている。適切な医療に係る支援では新たに訪問看護ステーションと医療連携し、健康管理や医療面での相談・助言・対応を得て、看護・介護との情報連携により利用者の健康保持に努めている。今年看取り支援にも尽力しており、褥瘡リスク確認表等の評価に仕組み利用者への最善のケアに配慮している。入浴は曜日を問わず且つ時間帯幅を拡充し個々の希望に添う対応が可能である。排泄統計一覧票により分析と実践を繰り返した排泄介助により排泄衛生用品類の使用率が軽減となっている。水分提供は飲み物の種類を増やし満足感や飲水量維持に向けている。食事は法人の栄養管理された献立である。敬老会は個別の寿司桶にて生寿司を出前し、手作りおやつも季節感がある。業務の手を止め利用者の側に椅子を置き寄り添う職員の姿があり、職員は利用者1人ひとりの気持ちを一番に考えたいと述べている。家族の評価も高い。管理者を中心に基本的な生活支援やケアのあり方を丁寧に見直し、利用者・家族の最善の利益に資するサービスを提供している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の導線に合わせて掲示し、出勤し勤務している間は、無意識に目にして環境設定を行っている。	3項目からなる基本理念を標榜し、要所への掲示や新人研修で学ぶ機会を設定している。理念に則った支援であるか、日々のサービス提供場面を振り返り見直しや意識づけを行い全体のものとなるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防のため、会社として外出制限があり、交流事業を行えていない。	感染症対策のため認知症カフェの開催、町内会や駅前各種イベントの参加など、地域住民との様々な交流が自粛や中止である。制限解除の折には認知症カフェを再開し交流事業を行う事としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの場を提供していたが、新型コロナウイルスの感染症対策として、中止しており、機会損失が多い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、通常開催が難しく、2カ月ごとに限定的に開催し、全家族へ近況を郵送にて報告している。	制限中に鑑み、家族は毎回1組限定ではあるが固定なく参加を得ている。メンバー縮小の体制を執りつつ、定期開催に尽力している。今後の運営方針や方向感、業務内の取り組み、啓発研修等の実施について協議している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員と定期的に連絡を取ることで、事業所の取り組みなどを伝えているとともに、市として行っている認知症初期集中支援対象者に入居していただくなど具体的な連携成果も出ている。	管理者は制度利用に向けた相談や諸所の意見を市の担当者に仰ぎ、適切な運営や利用者・家族の利益に資するよう努めている。市の認知症初期集中支援推進事業による対象者の支援連携を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度、不適切ケア防止委員会を開催し、半期に一度、職員研修を実施するなど。身体拘束を実施しない、させないケアに取り組んでいる。日中のオムツ使用率ゼロであり、全入居者がトイレ通いしている。	不適切ケア防止委員会要綱、更に身体拘束並びに事故予防・防止のための指針を定め、これらに基づき委員会・研修を実施している。車椅子利用者にあっては個々の身体状況を見極めつつ車椅子から椅子へ移乗介助した食事支援に努めている。夜間は防犯上ユニット玄関を施錠しているが日中は両ユニット間の行き来をフリーにし自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	半期に一度、不適切ケア防止にかかる研修を実施している。また、ケア全般について、週一回の医療連携業務を活用して、見直しを実施し、虐待の目を摘んでいる。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象利用者が入居していることから、リーダー職に関しては、制度の概要を含め説明している。また、介護保険制度改正に関することを通じて、誰しもが保険制度の概要を理解できるよう情報発信している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際の不安や疑問を確認し、ご理解いただけるよう丁寧な説明や対応を行っている。また、面会や電話相談を随時実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一階エントランスに意見箱を設置して、日頃よりご意見を頂戴できる体制を整えている。また、半期に一度、無記名にてアンケート調査を実施している。	利用者の発する言葉を重要性を持って捉え、意向などを適宜支援に反映させている。毎月の絆便りや都度電話にて利用者の様子等を発信し、相談しやすい雰囲気を作り、要望等を出しやすくしている。家族アンケート調査を実施しサービスの質の確保・向上に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、全体で職員会議を行い、運営に関する職員の意見や提案を確認している。また、随時、リーダー職が職員の意見を集約し、月一回、管理者へ報連相するなどの役職者会議を実施している。	ユニットリーダーが職員の提案や意見を集約し役職者会議で確認できる仕組みを設けている。調理・入浴の業務改善、ラウンジ・居室の環境整備が行われている。職員は介護業務確認表にて自己評価を実施し振り返りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員への登用やリーダー職への昇格など、働きに応じて、向上できる環境を整えている。また、キャリアアップの制度を用いて、無資格者に対して会社として費用負担を行い、研修受講をさせている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務振り返りシートを用いて日々の業務を振り返るとともに、個別にi-padを用いたe-ラーニング研修動画の受講を設定し、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症予防のため、会社として研修の実施制限があり、交流事業を行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアへの反応などを細かく記録することで、より良いケアの方法を模索し、ケアの標準化を図ろうとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族へ電話連絡を行うなど、入所初期の一か月程度をかけて、細かく要望を吸い上げることができる様支援している。 また、一か月に一回お便りを送付し、状況を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ず自宅などを訪問し、本人の状況や家族の要望などを確認して、入居後すぐに必要なケアが行えるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者のみではなく、入居者同士の関係性構築に向け、共生的な視点でのケアも実施している。 実際に、家事行為などを共に行う機会を日常的に設けて支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度のお便り発送を通じて、本人の状況を把握していただいていると共に、飲み物やお菓子などの差し入れ、電話連絡による近況報告などより良いケアの提供のために協働している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防策として、家族以外の外部の方との関りや外出などは制限されている。	家族の面会は制限緩和中に対応がなされた。現時点では本人への家族の差し入れや電話の取り次ぎ、テレビ電話の対応等を行っている。現在、馴染みの場としての接点は病院への通院受診が主である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性構築に向け、共生的な視点でのケアも実施している。 実際に、家事行為などを共に行う機会を日常的に設けて支援している。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の意向に即し、必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	否定的なケアを行わず、常に本人の世界観を大切にしながら、ケアを提供している。社会的な傾向性や十分性などの概念理解を深め、ケアの質を高めている。	職員は利用者との関わりを深め思いや意向について関心を払い把握に努めている。本人の視点に立ち考察し、仮説・実践により新たなニーズを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	起床から就寝まで生活リズムや生活様式を大切に、ゆとりある時間設定を行って、生活していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝まで生活リズムや生活様式を大切に、ゆとりある時間設定を行って、生活していただいている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療連携業務を通じて、介護のみではなく看護的な側面でもアイデアを頂き、ハイブリッドなケアの提供に繋げている。	課題やケアのあり方について関係者間で気づきやアイデアを出し合いより良い介護計画作成に努めている。基本的な生活支援やケアのあり方を丁寧に見直している。利用者個々のエンパワーメントに繋がりが、生活が再構築されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	専用の端末に日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有したうえで、ケアにあたっている。それにより、排せつリズムなどを把握でき、無用なオムツ等を使用せず支援出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴可能時間を10:00~15:00より9:00~17:30までと拡充したことで、生活リズムに即して対応できている。また、意図的に両ユニット分の食事を調理する担当者を配置することで、入居者対応を行う人員を増員している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和3年4月に開業した訪問看護ステーションと医療連携契約を締結し、介護のみではなく看護の視点を入れたハイブリッドなケアを提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な受診について、定期的実施しており、受診結果などについて、家族とも共有することで、納得を得ている。	契約時に家族の希望する医療機関の受診対応について話し合い同意を得ている。新たに訪問看護ステーションと医療連携し、身体や病状の観察、必要に応じて処置等がなされている。主治医・訪問看護師との連携の元に健康管理支援が強化されている。	

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	令和3年4月に開業した訪問看護ステーションと医療連携契約を締結し、介護のみではなく看護の視点を入れたハイブリットなケアを提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	令和2年9月より入院者を出さずに生活が出来ており、入院の対象者がここ一年居ないが、地域の入院機関とは、都度、連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い、同意いただくとともに、対象の状態になった際は、契約内容など踏まえ、個別に対応している。	利用者が重度化した場合の対応に係る指針を定め契約時に同意を得ている。状況変化に応じ関係者間で方針の統一を行っている。今年2月に看取り支援が行われた。急変時やデスカンファレンスの研修を実施中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、報連相の流れを整備するとともに、全ての職員は、応急手当や初期対応の研修を定期的に行い、実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけられるよう定期的に避難訓練等を実施している。	今年3月日中・地震から火災発生想定訓練を消防署の協力を得て実施し、6月夜間・火災想定避難訓練を行った。11月は風水害想定を予定している。災害備蓄品を確保している。自然災害発生時の業務継続計画(BCP)については法人本部にて策定中である。	エレベーターが使用できない場合を想定した避難誘導について、所要時間や安全策を更に検討し対策を強化する意向であるので、その実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行えるよう、業務内でも互いに注意指導を行い、より良いケアを実施している。	e-ラーニング等による接遇・不適切ケアに係る研修を行っている。対応を分析し日常的な確認や改善に努めている。個人データの取り扱いに留意し関係書類の保管場所を取り決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように、選択肢を与え、意向に即して生活できる状況を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間、時間で何をやるかというような旧態依然の業務設定ではなく、個々人の生活リズムを整えることに、重きをおいてケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感にあった衣類や日常着と就寝着を着替えて生活するなど、みだしなみについて十分に注意して対応している。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎや野菜の皮むき、もやしのみとりなど、入居者と職員が協働し食事を作っている。また、配膳や食器洗い片付けも随時共に実施している。	栄養バランスの良い献立で提供している。敬老の日は生寿司の出前で祝い、ボリューム感ある手作りのおやつも楽しみな食である。食事作業を通じ利用者の力の発揮をサポートしている。食事前後も画一的にせず、個々にリラックスできるよう配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専用の端末に日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有したうえで、ケアにあたっている。それにより、脱水や尿路感染などでの入院者を1年以上出していない。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時および毎食後の口腔ケアを実施している。口腔ケアについては、パンフレットにも掲載するほど重要性の高いケアとして捉えている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中については、オムツ使用者が居なく、全入居者がトイレ通している。夜間についても、可能な限りトイレ誘導を行い、入居者の2/3以上がトイレで排せつしている。	利用者個々の排泄統計一覧表を作成し詳しく状態が把握できる仕組みがある。実践と記録のサイクルにより根拠立て適切なケアに結びついている。リハビリパンツ・パッド類の使用率が軽減されている。また可能な限り下剤に頼らないケアの実践に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の適用について、提携薬局の薬剤師に研修を行っていただき、必要以上の下剤を使用していないことに加え、医療連携業務を通じて、下剤に頼らないケアの実践を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったり好きなタイミングで入浴できるよう、入浴時間を拡充し、土日関係なく対応している。また、安全に入浴できるよう、令和3年7月に手すりをつけるなど環境整備を実施した。	曜日を問わず9時～17時30分の時間帯で設定し、利用者の希望に対応できる入浴支援が可能になった。安定座位の利用者が増えシャワーキャリー使用者が少なくなっている。同性介助が可能である。浴室内の安全対策を見直し環境整備が行われた。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにソファを多く配置するなど、入居者が思い思いに休息できる環境設定を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容一覧をファイル化してすぐに確認できるなど、薬の用法や容量を意識したケアを提供できる環境を整えている。また、定期的に提携の薬局及び訪看の薬剤師、看護師から、助言指導を受けている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何もなくボーとしている時間を極力減らすため、常に歌が流れ、口ずさむ人が多いなど、楽しみごとや気分転換を図れるよう支援している。			

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策にて屋外へは通院以外外出制限があり、出かけられる支援は行えていない。	外出制限中であり、海産物市場やスーパー、コンビニエンスストア、ふれあい公園ドライブ、駅前イベントの参加など、沢山の外出行事等が中止や自粛である。現在は通院受診が外出の機会である。両ユニット間の行き来など可能な範囲で自由な暮らしを支えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得た形で、持っている安心感の確保から、財布や小銭入れ、通帳印鑑などを手持ちしている入居者がおり、尊重して対応している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の為、電話の取次ぎやテレビ電話の実施について積極的に家族へ呼びかけており、本人からも要望があった際は、応じている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度設定なども含め配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	海や電車、船などの景色が見える五感刺激のある開放的なラウンジである。ゆったり寛げるソファを配置するなど生活空間の見直しを行っている。利用者の好みの映像や音楽を流し、季節の装飾は随時行っている。エアコン・空気清浄機・CO2センサーなどで空調等を管理している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に誰かがそばにいる安心感や孤立していないと感じられる場の設定を意識、席の配置などを工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約の段階で、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような配慮をしている。また、身体状況等を考慮し、配置転換や模様替え等を行っている。	暖房機、カーテンが備え付けられている。馴染みの家具や調度品、愛着のある物が持ち込まれ、本人が安心できる環境作りに努めている。排泄にかかる用品類の配置など、自尊心やプライバシーに配慮し生活空間を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が送れるように、手すりなどを配置し、夜間帯の照明も工夫している			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196700124		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームわっかない絆 ユニット煌		
所在地	稚内市中央3丁目6番1号		
自己評価作成日	令和3年9月26日	評価結果市町村受理日	令和3年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0196700124-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

煌ユニットとして、特に力を入れている点・アピールしたい点としては、水分摂取状況と排せつ間隔を紐づけて管理し、便秘傾向の改善や十分な栄養補給量の確保を行っていることにあり、その成果として、ここ一年あまり、入院者を誰一人出すことなく、入居者の皆さんが、穏やかに生活できている状況にあることです。
また、可能な限り車いすでなく、椅子に座り生活していただくことにより、体感筋力の維持向上にもなり、寝たきりの予防にも繋がっています。そのため、廃用の進行も押さえられており、ユニット内の全入居者が、日中トイレ通いしていることに加え、夜間帯も2/3の入居者がトイレ通いしていることです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の導線に合わせて掲示し、出勤し勤務している間は、無意識に目にしてしている環境設定を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防のため、会社として外出制限があり、交流事業を行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの場を提供していたが、新型コロナウイルスの感染症対策として、中止しており、機会損失が多い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、通常開催が難しく、2カ月ごとに限定的に開催し、全家族へ近況を郵送にて報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員と定期的に連絡を取ることで、事業所の取り組みなどを伝えけるとともに、市として行っている認知症初期集中支援対象者に入居していただくなど具体的な連携成果も出ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度、不適切ケア防止委員会を開催し、半期に一度、職員研修を実施するなど。身体拘束を実施しない、させないケアに取り組んでいる。日中のオムツ使用率ゼロであり、全入居者がトイレ通いしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	半期に一度、不適切ケア防止にかかる研修を実施している。また、ケア全般について、週一回の医療連携業務を活用して、見直しを実施し、虐待の目を摘んでいる。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象利用者が入居していることから、リーダー職に関しては、制度の概要を含め説明している。また、介護保険制度改正に関することを通じて、誰しもが保険制度の概要を理解できるよう情報発信している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際の不安や疑問を確認し、ご理解いただけるよう丁寧な説明や対応を行っている。また、面会や電話相談を随時実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一階エントランスに意見箱を設置して、日頃よりご意見を頂戴できる体制を整えている。また、半期に一度、無記名にてアンケート調査を実施している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、全体で職員会議を行い、運営に関する職員の意見や提案を確認している。また、随時、リーダー職が職員の意見を集約し、月一回、管理者へ報連相するなどの役職者会議を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員への登用やリーダー職への昇格など、働きに応じて、向上できる環境を整えている。また、キャリアアップの制度を用いて、無資格者に対して会社として費用負担を行い、研修受講をさせている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務振り返りシートを用いて日々の業務を振り返るとともに、個別にi-padを用いたe-ラーニング研修動画の受講を設定し、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症予防のため、会社として研修の実施制限があり、交流事業を行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアへの反応などを細かく記録することで、より良いケアの方法を模索し、ケアの標準化を図ろうとしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族へ電話連絡を行うなど、入所初期の一か月程度をかけて、細かく陽坊を吸い上げることができる様支援している。 また、一か月に一回お便りを送付し、状況を伝えている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ず自宅などを訪問し、本人の状況や家族の要望などを確認して、入居後すぐに必要なケアが行えるよう配慮している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者のみではなく、入居者同士の関係性構築に向け、共生的な視点でのケアも実施している。実際に、家事行為などを共に行う機会を日常的に設けて支援している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度のお便り発送を通じて、本人の状況を把握していただいていると共に、飲み物やお菓子などの差し入れ、電話連絡による近況報告などより良いケアの提供のために協働している。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防策として、家族以外の外部の方との関りや外出などは制限されている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性構築に向け、共生的な視点でのケアも実施している。 実際に、家事行為などを共に行う機会を日常的に設けて支援している。			

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の意向に即し、必要に応じて対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	否定的なケアを行わず、常に本人の世界観を大切にしながら、ケアを提供している。社会的な傾向性や十分性などの概念理解を深め、ケアの質を高めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	起床から就寝まで生活リズムや生活様式を大切に、ゆとりある時間設定を行って、生活していただいている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝まで生活リズムや生活様式を大切に、ゆとりある時間設定を行って、生活していただいている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療連携業務を通じて、介護のみではなく看護的な側面でもアイデアを頂き、ハイブリッドなケアの提供に繋げている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	専用の端末に日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有したうえで、ケアにあたっている。それにより、排せつリズムなどを把握でき、無用なオムツ等を使用せず支援出来ている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴可能時間を10:00～15:00より9:00～17:30までと拡充したことで、生活リズムに即して対応できている。また、意図的に両ユニット分の食事を調理する担当者を配置することで、入居者対応を行う人員を増員している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和3年4月に開業した訪問看護ステーションと医療連携契約を締結し、介護のみではなく看護の視点を入れたハイブリッドなケアを提供している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な受診について、定期的実施しており、受診結果などについて、家族とも共有することで、納得を得ている。			

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	令和3年4月に開業した訪問看護ステーションと医療連携契約を締結し、介護のみではなく看護の視点を入れたハイブリットなケアを提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	令和2年9月より入院者を出さずに生活が出来ており、入院の対象者がここ一年居ないが、地域の入院機関とは、都度、連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い、同意いただくとともに、対象の状態になった際は、契約内容など踏まえ、個別に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、報連相の流れを整備するとともに、全ての職員は、応急手当や初期対応の研修を定期的に行い、実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけられるよう定期的に避難訓練等を実施している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行えるよう、業務内でも互いに注意指導を行い、より良いケアを実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように、選択肢を与え、意向に即して生活できる状況を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間、時間で何をやるかというような旧態依然の業務設定ではなく、個々人の生活リズムを整えることに、重きをおいてケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感にあった衣類や日常着と就寝着を着替えて生活するなど、みだしなみについて十分に注意して対応している。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎや野菜の皮むき、もやしのめとりなど、入居者と職員が協働し食事を作っている。また、配膳や食器洗い片付けも随時共に実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専用の端末に日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有したうえで、ケアにあたっている。それにより、脱水や尿路感染などでの入院者を1年以上出していない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時および毎食後の口腔ケアを実施している。口腔ケアについては、パンフレットにも掲載するほど重要性の高いケアとして捉えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中については、オムツ使用者が居なく、全入居者がトイレ通いしている。 夜間についても、可能な限りトイレ誘導を行い、入居者の2/3以上がトイレで排せつしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の適用について、提携薬局の薬剤師に研修を行っていただき、必要以上の下剤を使用していないことに加え、医療連携業務を通じて、下剤に頼らないケアの実践を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったり好きなタイミングで入浴できるよう、入浴時間を拡充し、土日関係なく対応している。 また、安全に入浴できるよう、令和3年7月に手すりをつけるなど環境整備を実施した。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにソファを多く配置するなど、入居者が思い思いに休息できる環境設定を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容一覧をファイル化してすぐに確認できるなど、薬の用法や容量を意識したケアを提供できる環境を整えている。また、定期的に提携の薬局及び訪問の薬剤師、看護師から、助言指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何もなくボーとしている時間を極力減らすため、常に歌が流れ、口ずさむ人が多いなど、楽しみごとや気分転換を図れるよう支援している。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策にて屋外へは通院以外外出制限があり、出かけられる支援は行えていない。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得た形で、持っている安心感の確保から、財布や小銭入れ、通帳印鑑などを手持ちしている入居者がおり、尊重して対応している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の為、電話の取次ぎやテレビ電話の実施について積極的に家族へ呼びかけており、本人からも要望があった際は、応じている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度設定なども含め配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に誰かがそばにいる安心感や孤立していないと感じられる場の設定を意識、席の配置などを工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約の段階で、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような配慮をしている。また、身体状況等を考慮し、配置転換や模様替え等を行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が送れるように、手すりなどを配置し、夜間帯の照明も工夫している。			

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	エレベーターが使用できない場合を想定した避難誘導について、所要時間や安全策を更に検討し対策を強化する意向であるので、その実現に期待したい。	エレベーターが使用できなくなるなどの大災害でも入居者の安全確保を最優先して、必要に応じた避難などについて対応できる。	災害時における避難情報やハザードマップなどを基にした有効な避難対応について、避難確保計画を策定し、対応する。 また、定期的な避難訓練において、消防等とも連携を図り、避難に資する時間や留意点を確認・検討する。	2年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。